

## 1. 日本語教育部門

日本語教育部門は、本学に在籍する外国人留学生への日本語・日本事情教育と、日本語教師養成を行なっている。

当部門の担当する日本語・日本事情教育の授業は、大きく次の 5 種類に分類することができる。

1. 留学生センター開講授業  
「日本語研修コース」「日本語・日本文化研修留学生プログラム」
2. 「全学共通教育科目」としての日本語科目
3. 「学部教育科目」としての日本語科目
4. 「大学院科目」
5. 「秋季集中日本語コース」

これらの日本語の授業コースのうち、「日本語研修コース」と「秋季集中日本語コース」の授業、および「日本語・日本文化研修留学生プログラム」の一部として留学生センターが開講する「日研ゼミナール」では単位が認定されないが、それ以外は単位が認定される科目であり、本学の日本語教育の一つの特徴となっている。また、後掲の表に示すように、日本語担当教員が各学部や研究科と連携をとりながら、センターや学部の枠にとらわれずに授業を担当していることも特徴として挙げるができる。

### 1. 留学生センター開講授業

#### 1-1 日本語研修コース

##### 〈コースの概要〉

日本語研修コースは、文部科学省国費研究留学生のうちで日本語の予備教育を必要とする者（「日本語研修生」と呼ばれる）を主な対象とする。渡日時以前に日本語学習歴のない者から初中級レベルにある留学生がこのコースを受講し、半年間の日本語学習の後、本学の研究生、あるいは大学院生となる。日本語研修生以外に、大学推薦の国費留学生、交流協定大学からの派遣学生、あるいは私費の留学生がこのコースに参加することもある。

このコースの日本語学習の目標は、学内外の日常生活に必要な日本語運用能力を獲得すること、および、各参加者の専門の勉学・研究活動に必要な日本語力の基礎を構築することである。

コースは、各年度 2 回開講される（それぞれ、「4 月コース」「10 月コース」）。

4 月コース：4 月上旬開講、9 月中旬修了

（9 月に 3 週間の「集中日本語コース」を実施）

10 月コース：10 月上旬開講、3 月中旬修了

コースには、日本語教育の授業のほかに、異文化理解・適応に焦点を当てた授業として「異文化体験ゼミナール」（担当は相談部門教員）が組み込まれる。

コースを修了した留学生は本学の研究生、あるいは大学院生となるが、「全学共通教育科目」「学部教育科目」としての日本語科目、あるいは「秋季集中日本語コース」から各自の日本語力、必要と興味に合った授業を選び、受講することによって日本語学習を継続することができる。

### 〈各学期報告〉

第26期（2009年4月コース：2009年4月～9月）

5か国から6名の留学生が参加。1クラス編成。6名を初級クラス（Aクラス）に配置した。日本語教育担当教員は1名の専任教員、および、3名の非常勤講師（志村ゆかり、田中久美子、福岡理恵子）である。

初級クラスの主な教材：『初級日本語』（東京外国語大学留学生日本語教育センター）とその副教材、『毎日の聞きとり 50日 初級編』（宮城ほか）、『わくわく文法リスニング 99』（小林ほか）、『Intermediate Japanese』（ジャパントイムズ）、『Basic Kanji Book 基本漢字 500（Vol. 1、Vol. 2）』（加納ほか）、そのほか各種自作教材。

### 第26期生名簿

氏名	性別	国籍	クラス	修了後配置先
Khan, Hidayat Ullah	M	パキスタン	A	経済学研究科
Steves, Max*	M	ドイツ	A	経済学研究科
De Jong, Patrick*	M	ドイツ	A	商学研究科
Gau, Lea*	F	フランス	A	商学研究科
In Thearith**	M	カンボジア	A	国際・公共政策大学院
Tasev, Petar Lyudmilov	M	ブルガリア	A	商学研究科

\* 交流学生    \*\* 大学院正規生

1. 日本語教育部門

第 26 期時間割

	I	II	III	IV
月	初級文法・練習 (田中)	初級文法・練習 (田中)	初級文字・復習 (志村)	初級聴解・読解 (志村)
火	初級文法・練習 (福岡)	初級文法・練習 (福岡)	---	---
水	初級文法・練習 (石黒)	初級作文・小テスト (石黒)	---	---
木	初級文法・練習 (福岡)	初級文法・練習 (福岡)	異文化体験ゼミナール (阿部)	異文化体験ゼミナール (阿部)
金	初級文法・練習 (田中)	初級文法・練習 (田中)	初級文字・復習 (石黒)	初級聴解・読解 (石黒)

第 27 期 (2009 年 10 月コース 2009 年 10 月～2010 年 3 月)

初級クラス (A クラス) の主な教材: 『Basic Japanese for Students はかせ 1 留学生の日本語初級 45 時間 新装版』 (山崎・土井)、 『Basic Kanji Book 基本漢字 500 (Vol. 1)』 (加納ほか)、 そのほか各種自作教材。

初中級クラス (B クラス) の主な教材: 『Basic Japanese for Students はかせ 2 留学生の日本語初級 45 時間 新装版』 (山崎・土井)、 『げんき II』 (ジャパンタイムズ)、 『Basic Kanji Book 基本漢字 500 (Vol. 1、Vol. 2)』 (加納ほか)、 そのほか各種自作教材。

第 27 期生名簿

氏名	性別	国籍	クラス	修了後配置先
Majid Alerasool Dehkordi	M	イラン	中級	商学研究科
Anne-Cecile Merlin*	F	フランス	A	法学部
Erik Arnaud*	M	フランス	A	法学部
Alberto Abbate*	M	イタリア	A	1 semester 留学、帰国
Valeria Del Boca*	F	イタリア	A	1 semester 留学、帰国
Li Ping Zhi*	F	中国	A	1 semester 留学、帰国
Su Shiao chin*	F	ドイツ	B	社会学部
Su Hanno*	M	ドイツ	B	社会学部
Vincent Msika*	M	フランス	B	法学部
Fang Ya Di*	F	中国	B	1 semester 留学、帰国

\* 交流学生

第 27 期時間割

		I	II	III	IV
月	A	初級文法・練習 (五味)	初級文法・練習 (五味)	初級文字・復習 (志村)	初級聴解・読解 (志村)
	B	初中級文法・練習 (田中)	初中級文法・練習 (田中)	----	----
火	A	初中級文法・練習 (福岡)	初中級文法・漢字 (福岡)	----	----
水	A	初級文法・練習 (五味)	初級文法・練習 (五味)	----	----
木	A	初中級文法・練習 (福岡)	初中級文法・漢字 (福岡)	異文化体験ゼミナール (阿部)	異文化体験ゼミナール (阿部)
金	B	初中級文法・練習 (田中)	初中級文法・練習 (田中)	----	----

1-2 日本語・日本文化研修留学生プログラム

〈コースの概要〉

文部科学省国費学部留学生のうちで日本語・日本文化を中心に学び、日本語力が上級レベルに達している者を対象としている。研修生は、従来どおり学部ゼミナールに所属し、各自の希望にあわせて日本語科目、全学共通教育科目、学部教育科目を履修する。また、2006年度10月来日学生からは大使館推薦の学生とともに、大学推薦の学生も日研生ゼミナールに参加し、修了レポートの作成を行うことになった。2005年度より如水会事務局のサポートを得て、企業に於けるインターンシップも行っている。

2008年度日本語・日本文化研修留学生プログラム（2008年10月1日～2009年9月30日）

10名の研修留学生が以下のタイトルの修了レポートを作成し、口頭プレゼンテーションを行った（2009年7月29日）。留学生センター専任教員（上級ベル西谷・中級レベル庵）が修了レポートの作成指導にあたった。

## 1. 日本語教育部門

### 2008 年度日本語・日本文化研修留学生名簿及び修了レポートタイトル

氏名	性別	国籍	修了レポートタイトル
Buasaengtham, Arnon	M	タイ	男女における終助詞「わ」の用法
Kim, Wijin (金偉眞)	M	韓国	日本の産業に外国人労働者が及ぼす経済的影響
Park, Soojin (朴修璿)	F	韓国	若者言葉から見た日韓両国の言語の乱れの実状と未来
Zhang, Li (張黎)	F	中国	日本と中国の諺及び諺に現れる文化背景の比較
Zhang, Wei (張威)	M	中国	日中若者言葉における略語の比較
Kim, Bona	F	韓国	変化するオタク像の考察
Lee, Yunmi	F	韓国	在日コリアンについて
Davidson, Susannah Caitlin*	F	アメリカ	日本におけるエコの現況
Jasdev, Sekhon Singh*	M	イギリス	2000年代の日本景気、社会などの問題
Byun, Sangchul*	M	韓国	征韓論を通じて見た近代日本の朝鮮認識

\* 大学推薦

### 2008 年度日本語・日本文化研修インターンシップ報告

氏名	国籍	インターン先	時期
Buasaengtham, Arnon	タイ	江戸屋	8月12日～8月19日
Zhang, Li (張黎)	中国	如水会館	8月10日～8月21日
Lee, Yunmi	韓国	キックコーマン	8月24日～8月28日
Zhang, Wei (張威)	中国	みずほコーポレート銀行	8月5日～9月4日

### 2009 年度日本語・日本文化研修留学生プログラム (2009年10月1日～2010年9月30日)

5名の大使館推薦、3名の大学推薦の学生を対象に修了レポート作成の準備として、2008年度に作成した研修生のレポートを読んだ。2010年1月末までに修了レポートの大まかなテーマを決定し、留学生センターの専任教員（西谷）が指導を担当した。

### 2009 年度日本語・日本文化研修留学生名簿及び指導教員

氏名	性別	国籍	所属学部	指導教員
Kim, Seongmin	F	韓国	商学部	今村和宏
Shin, Seungyong	F	韓国	経済学部	加藤俊彦
Son, Youngeun	F	韓国	経済学部	今村和宏
You, Leeanna	F	韓国	経済学部	今村和宏
Deng, Chuhong (鄧楚泓)	F	中国	経済学部	今村和宏
Park, Jina*	F	韓国	経済学部	山下英俊
Merida, Tarik*	M	ドイツ	社会学部	堂免隆浩
Huang, Lei Lei*	F	中国	経済学部	古澤泰治

\* 大学推薦

## 2. 全学共通教育科目としての日本語科目

全学共通教育科目として開講される日本語関係科目にはさまざまなものがある。2009年度は、年間のベ科目数で27、ゼメスター単位の延ベコマ数で41コマ（1コマ=90分授業が週に1回で、2単位に相当）になる。以下に各科目の担当者、コマ数、対象（特に明記しない限り留学生を対象とする）、内容、総時間数などを表にして記す。

### 2-1 学部留学生対象の日本語・日本事情科目

「日本語 A」と「日本語 B」は、学部1年の留学生を対象にした科目で、「一般日本事情 I」及び「一般日本事情 II」は、主に学部1・2年生の留学生を対象としている。この4科目が狭義の「日本語・日本事情科目」と呼ばれるものである。

表1：日本語・日本事情科目

科目（担当者）	コマ数	対象	授業内容・到達目標	時期・時間数
日本語 A （今村、三枝）	2コマ ／週	学部1年生	社会科学の勉学に必要な日本語能力を総合的に養成。特に教科書等を正確に読みこなし、講義を聞いて理解する訓練をする。	夏学期に開講 60時間
日本語 B （西谷、庵）	2コマ ／週	上に同じ	「日本語 A」に続いて高度な日本語能力を養成する。	冬学期に開講 60時間
一般日本事情 I （夏：西谷）	1コマ ／週	主に学部1、2年生	明治期の日本と中国・韓国の関係を中心に、歴史関係の資料読解、ビデオ視聴、討論を行う。	夏学期に開講 30時間
一般日本事情 II （冬：河野）	1コマ ／週	上に同じ	日本文化を再考する。例えば、伝統文化については、構築主義的観点から見直してみる。また、日本から海外に渡った日本文化が外国でどのように受容され、または変容しているのかを考察。最後に受講者は「気になる日本文化」について調査し、レポートにまとめて報告し、全員でディスカッションをする。	冬学期に開講 30時間

### 2-2 全留学生対象の日本語科目

次の表2、表3に掲げる科目は、単位取得が可能な正規科目として、交流学生（交流協定校からの1年の短期留学生）、研究生（日本語研修コース修了生を含む）、日本語日本文化研究留学生（略称「日研生」）、学部1・2年生、大学院正規生など、全カテゴリーの留学生がそれぞれのレベルとニーズにあわせて選択、履修している。

クラス編成はプレースメント・テストの結果、学習者それぞれのニーズ等によって決められる。2009年度の非常勤講師は、新城直樹、安部達雄、池田幸弘、渋谷実希、鈴木容子、筒井千絵であった。

1. 日本語教育部門

表 2：選択科目

科目(担当者)	コマ数	対 象	授業内容・到達目標	時期・時間数
日本語選択・ 文章表現入門 (夏：筒井)	1コマ /週	主に交流学生、 研究生（中級）	初級文型を復習しながら、文章表現の基礎を学ぶ。	夏学期に開講 30時間
日本語選択・文章表現Ⅰ (夏冬：三枝)	1コマ /週	主に交流学生、 研究生（中級）	社会科学系の論文を書く際に必要な基本的文型や表現・語彙を習得し、論理的な文章をふさわしい文体で書けるようにする。	夏学期と 冬学期に開講 各30時間
日本語選択・文章表現Ⅱ (夏：渋谷、冬：筒井)	1コマ /週	主に交流学生、 研究生（上級前）	あるテーマについて掘り下げながら、正しい文法と適切な表現を使って、読む人を納得させられる文章を書く能力を身につける。	夏学期と 冬学期に開講 各30時間
日本語選択・文章表現Ⅲ (夏冬：安部)	1コマ /週	主に学部前期学生、 日研究生、交流学生、 研究生（上級後）	文体、文章構成などについて、ともに議論することを通して、論文を書くのに必要な文章表現技術を身につける。	夏学期と 冬学期に開講 各30時間
日本語選択・漢字CAI (夏：新城)	1コマ /週	主に交流学生、 研究生（中級）	初・中級レベルの漢字力をつける。	夏学期に開講 30時間
日本語選択・文法Ⅰ (冬：鈴木)	1コマ /週	主に交流学生、 研究生（中級）	初級文法の総まとめをする。	冬学期に開講 30時間
日本語選択・文法Ⅱ (夏：庵、冬：三枝)	1コマ /週	主に交流学生、 研究生（上級）	中・上級レベルの文法力を確かなものにする。	夏学期と 冬学期に開講 各30時間
日本語選択・ 口頭表現入門 (夏・鈴木)	1コマ /週	主に交流学生、 研究生（中級）	初級文型を使って口頭運用の基礎を養成する。	夏学期に開講 30時間
日本語選択・口頭表現Ⅰ (夏冬：三枝)	1コマ /週	主に交流学生、 研究生（中級）	大学生活で自然な日本語が使えるようにする。中級中期レベルの運用能力をつける。	夏学期と 冬学期に開講 各30時間
日本語選択・口頭表現Ⅱ (夏冬：池田)	1コマ /週	主に交流学生、 研究生（上級前）	大学生活で自然な日本語が使えるようにする。中級後期レベルの運用能力をつける。待遇表現等を学ぶ。	夏学期と 冬学期に開講 各30時間
日本語選択・口頭表現Ⅲ (夏冬：新城)	1コマ /週	主に学部前期学生、 日研究生、交流学生、 研究生（上級後）	大学生活に必要なプレゼンテーション・スキル等、高度なコミュニケーション・スキルを養成する。	夏学期と 冬学期に開講 各30時間
日本語選択・翻訳 (夏冬：鶴田)	1コマ /週	主に交流学生、 研究生（上級）、 学部前期生	主に社会科学系の英語文献を日本語に翻訳することを通して日本語力を向上させる。	夏学期と 冬学期に開講 各30時間
日本語選択・中級読解Ⅰ (冬：筒井)	1コマ /週	主に交流学生、 研究生（中級）	初級文型を復習しながら、少し長い文章を読む。	冬学期に開講 30時間
日本語選択・中級読解Ⅱ (夏：三枝、冬：庵)	1コマ /週	主に交流学生、 研究生（中級）	新聞、新書などの長い文にふれる。語彙・文型を増やす。	夏学期と 冬学期に開講 各30時間
日本語選択・上級読解Ⅰ (夏：庵、冬：三枝)	1コマ /週	主に交流学生、 研究生（上級前）	読解のストラテジーを確認しながら、内容を読みとる力をつける。	夏学期と 冬学期に開講 各30時間
日本語選択・速読 (夏：三枝、冬：新城)	1コマ /週	主に学部前期学生、 日研究生、交流学生、 研究生（上級後）	社会・人文科学分野の新聞・雑誌をテキストに、生の日本語を速く読む能力をつける。	夏学期と 冬学期に開講 各30時間
日本語選択・ 社会科学の基礎語彙 (夏冬：今村)	1コマ /週	主に交流学生、 研究生（中級）	社会科学の各分野の勉強・研究に必要な基礎語彙をテキストやプリントを用いて学ぶ。	夏学期と 冬学期に開講 各30時間
日本語選択・ 近代文語文講読 (夏：庵)	1コマ /週	主に学部前期学生、 日研究生、交流学生、 研究生（上級後）	明治、大正期の文語文を読み、その時代の資料特有の文法や表現を学ぶ。	夏学期に開講 30時間

### 2-3 学部生対象の日本語関係科目

「現代日本語論Ⅰ」「現代日本語論Ⅱ」は、留学生を含む、学部生一般を対象とした全学共通教育科目、「教養ゼミ」は、留学生を含む学部 1、2 年生を対象とした科目、「共通ゼミ」は、主に留学生を含む学部 3、4 年生を対象とした科目である。

表 3：学部生対象の日本語関係科目

科目（担当者）	コマ数	対 象	授業内容・到達目標	時期・時間数
現代日本語論Ⅰ （夏：石黒）	1 コマ ／週	留学生を含む学部 1、2 年生	文法、表記、表現選択などを意識化、対象化して学ぶことによって、文章技術の向上を目指す。	夏学期に開講 30 時間
共通ゼミ （庵）	1 コマ ／週	学部 3、4 年生	日本語学の方法論を身につける。	通年開講 60 時間
共通ゼミ （三枝）	1 コマ ／週	学部 3、4 年生 交流学生	日本語・日本文化に関する文献を講読する。	通年開講 60 時間
共通ゼミ （今村）	1 コマ ／週	学部 3 年生 日研究生	各自の専門分野における日本語の資料を比較検討する。および、レポート作成の指導をする。	通年開講 60 時間
共通ゼミ （今村）	1 コマ ／週	学部 4 年生	日本語文法および日本語教育の文献を読み、討議する。	通年開講 60 時間

### 3. 学部教育科目としての日本語科目（留学生対象）

学部教育の枠組みでは、経済学部において「経済の日本語Ⅰ・Ⅱ」（夏学期、冬学期に各週 1 コマ）、法学部において「法の日本語」（夏学期、週 1 コマ）、社会学部において「社会・人文の日本語Ⅰ・Ⅱ」（夏学期、冬学期に各週 1 コマ）がそれぞれ開講されている。いずれも各学部における留学生の専門日本語能力の向上を図るために開設されているが、他学部の学部生、研究生、交流学生、日研究生も履修することができる。

表 4：学部教育科目

科目（担当者）	コマ数	対 象	授業内容・到達目標	時期・時間数
経済の日本語Ⅰ （夏冬：西谷）	2 コマ ／週	主に経済学部の 交流学生、研究生 （上級前）	経済学を中心とする社会科学の分野で使われる語彙・表現をテキストを用いて学習するほか、日本経済新聞などの記事を講読し、テレビニュースを視聴する。	夏学期と 冬学期に開講 各 30 時間
経済の日本語Ⅱ （夏冬：今村）	1 コマ ／週	主に経済学部の 学部生、交流学生、 研究生（上級後）	日本経済新聞などの記事や経済学・商学の専門文献の抜粋をテキストとして使用し、主に経済学の分野で用いられる語彙・表現を細かなニュアンスまで掘り下げて学習するとともに、筆者の視点や価値判断を読み取る。	夏学期と 冬学期に開講 各 30 時間



## 1. 日本語教育部門

科目（担当者）	コマ数	対 象	授業内容・到達目標	時期・時間数
法の日本語 （夏：三枝）	1コマ ／週	主に法学部の 学部生、交流学生、 研究生（上級後半）	『判例で学ぶ日本の法律』（一橋大 学留学生センター）をテキストに、 法律や法学に関する文章を読み こなす力をつける訓練をする。	夏学期に開講 30 時間
社会・人文の日本語Ⅰ （夏：河野）	1コマ ／週	学部の2年生、 交流学生、日研生、 研究生	社会学の専門知識について理解さ せる。	夏学期に開講 30 時間
社会・人文の日本語Ⅱ （冬：河野）	1コマ ／週	学部の2年生、 交流学生、日研生、 研究生	社会学の専門知識について理解さ せる。	冬学期に開講 30 時間

## 4. 大学院科目

### 4-1 留学生のための大学院科目

大学院科目においては、2009年度、経済学研究科で「経済専門文献日本語」、社会学研究科で「総合社会科学日本事情」、言語社会研究科で「専門日本語表現技法Ⅰ」、国際・公共政策大学院で「日本研究Ⅰ」が開講された。科目によっては、留学生に限定せず、日本語を母語とする学生にも開講されている。

表5：大学院科目

科目（担当者）	コマ数	対 象	授業内容・到達目標	時期・時間数
経済専門文献日本語 （夏冬：今村）	1コマ ／週	主に経済学研究科 の修士、博士課程 の学生、及び学部 4年生。	経済専門文献日本語の理解におけ る落とし穴に目を向け、言語表現 に現れる筆者の視点や立場を読み とる。同時に論文執筆、発表の技 術も指導する。	夏学期と 冬学期に開講 各 30 時間
総合社会科学日本事情 （夏：河野）	1コマ ／週	主に修士1年生、 研究生（日本人 大学院生も対象）	戦後の日本人論、日本文化論の著 作を複数講読し、その内容を自分 の身近な問題として考察する。授 業参加者には自分なりの「日本人 論」を考えてもらう。	夏学期に開講 30 時間
専門日本語表現技法Ⅰ （夏：鶴田）	1コマ ／週	主に言語社会研究 科の学生	学術的文章の特徴に習熟するた めの訓練を行う。	夏学期に開講 30 時間
日本研究Ⅰ （冬：三枝）	1コマ ／週	主に国際・公共政 策大学院の修士課 程の学生	いくつかの判決文を素材に、日本 の環境問題、宗教、差別等につい て考える。	冬学期に開講 30 時間

## 5. 補講としての日本語(秋季集中日本語コース)

正規のカリキュラム外に開講されるもので、単位は付与されない。2009年度は9月に3週間の集中日本語コースが開かれた。対象者は、センターの日本語研修生と交流学生、研究生である。交流学生については、10月の学期開始前に来日し、本コースに参加する機会を設けている。クラス編成、授業担当教員、内容、使用教材を以下に記す。

表 6：2009 年度秋季集中日本語コース（2009 年 9 月 2 日～18 日、全 65 時間） 担当：西谷

クラス（担当者）	内 容	使用教材
Aクラス （松浦、筒井）	初級文法・漢字・語彙を確認しながら聴解力の向上を目指し、中級文法へと橋渡しする。（言語社会研究科第二部門の教育実習生が授業を担当し、担当教員は事前事後指導に当たった。）	『Intermediate Japanese』 三浦昭ほか、Japan Times
Bクラス （阿保、永井）	中級文法・漢字・語彙を確認しながら総合的運用力の向上を目指し、上級への橋渡しをする。	『日本への招待 第2版』 近藤 安月子 編 東京大学出版会
Cクラス （志村、新城）	高度な内容の時事問題について読解、討論および文章作成を行う。	『imidas SPECIAL 時事力』 イミダス編集部（編集）集英社

（文責：庵 功雄、石黒 圭、今村 和宏、五味 政信、三枝 令子、鶴田 庸子、西谷 まり）